

科目名	嚥下障害 I			授業の種類	演習	講師名						
授業回数	15	回	時間数	30	時間	1	単位	必修・選択	必須	配当学年 時期	ST2年	前期
【授業の目的・ねらい】 多様な原因で発症する摂食嚥下障害の診断，評価，訓練法を習得する												
【実務者経験】 言語聴覚士として大阪発達総合療育センター、にこにこハウス医療福祉センターにて、発達障害児の言語聴覚療法に従事経験。												
【授業全体の内容の概要】 嚥下にかかわる器官と嚥下のメカニズム、及び嚥下障害の原因となる疾病と外傷、嚥下障害の病態について理解する												
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 1. 嚥下にかかわる器官と嚥下のメカニズムを理解する 2. 対象者の病態・様態に関わらず摂食嚥下障害を評価するための知識を身につける 3. 摂食嚥下障害に対する治療法・リハビリテーションを理解する												
回数	講義内容										準備物(教材)	
1	総論：リハビリテーションと口腔機能について理解できる										ポ：1～3、67～80 摂食：18～26p	
2	総論：摂食嚥下機能障害と嚥下5期について理解できる										ポ：4～15p 摂食：13～18p	
3	復習：嚥下の器官、嚥下5期について説明できる											
4	小児の嚥下障害の病態について概要を理解できる										ポ：17、255p～ 摂食：30～51p	
5	成人の嚥下障害の病態について概要を理解できる										ポ：17～34p 摂食：51～83p	
6	事例検討。自分達で調べる事ができる（病態、原因疾患など）											
7	嚥下の観察、評価について理解できる										ポ：35～42p 摂食：91～95p	
8	摂食嚥下に関する主な検査を理解できる①										ポ：43～47p 摂食：96～99p	
9	摂食嚥下に関する主な検査を理解できる②（嚥下造影、嚥下内視鏡検査）										ポ：48～59p 摂食：107～118p	
10	摂食嚥下障害に対するリスク管理について理解できる										ポ：81～97p 摂食：203～225p	
11	摂食嚥下障害に対する訓練法について理解できる①（基礎訓練）										ポ：99～122p 摂食：225～264p	
12	摂食嚥下障害に対する訓練法について理解できる②（直接訓練）										ポ：122～157p 摂食：225～264p	
13	摂食嚥下障害に対する歯科補綴的アプローチについて理解できる											
14	摂食嚥下障害と栄養について理解できる											
15	まとめ											
定期筆記試験												
【使用教科書・教材・参考書】 標準言語聴覚障害学 摂食嚥下障害学 嚥下障害ポケットマニュアル												
【準備学習・時間外学習】 授業の予習、復習を行うこと。												
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、 60点以上の場合に科目を認定する。												